

## 質問（20条関連）

1. 規準20条（P.41-42）に、杭基礎の場合、 $p_w \geq 0.2\%$ を配する条件で $\alpha$ を考慮できる旨追記されましたが、直接基礎の場合も $p_w \geq 0.2\%$ を配すれば $\alpha$ を考慮できると考えて宜しいでしょうか？

また、べた基礎についても、せん断補強筋（ $p_w \geq 0.2\%$ ）を配すれば $\alpha$ を考慮できると考えて宜しいでしょうか？

（JSCA 中部支部 RC 分科会）

2. 基礎スラブの許容せん断力について、適切なディテールのせん断補強筋比が $p_w = 0.2\%$ 以上で配筋とありますが、やはり $\alpha$ を考慮する条件として、 $0.2\%$ は必須でしょうか？

また、 $\alpha$ の範囲は $1 \leq \alpha \leq 2$ でしょうか？

（JSCA 本部 RC 分科会）

## 回答

1. 今回の改定では、実験結果に基づいた上で杭基礎の場合について $\alpha$ を考慮できるようにしました。直接基礎の場合にも適用できるか否かについては知見の収集が必要だと考えます。

2. 今回の $\alpha$ 考慮は、複数の杭が剛接合された基礎の基礎スラブを複筋配筋された梁として設計する場合を対象としています。 $\alpha$ 効果は、15条の梁・柱のせん断と同様としていますが、15条の短期許容せん断力は $p_w = 0.2\%$ のせん断補強筋の寄与が見込まれていることから、20条も同様に $0.2\%$ 以上配筋することを条件としています。

なお、 $\alpha$ の範囲は $1 \leq \alpha \leq 2$ です。